

絆でつながる家庭教育支援セミナー 共通スキルアップ講座

「今、求められている家庭教育支援とは」

平成27年11月17日(火) 青森県総合社会教育センター 大研修室・第1研修室 参加者 116名

絆でつながる家庭教育支援セミナー共通スキルアップ講座が、11月17日(火)に開催されました。

公開講演では、白梅学園大学学長・東京大学名誉教授 汐見 稔幸 先生をお招きして、「今、求められている家庭教育支援とは～地元だからこそできる支援～」と題して、家庭教育の今日的な課題等についてご講演をいただきました。

今、どうして家庭教育支援が大事になっているのでしょうか

①子どもが育つ社会の仕組み、生態が変わってきたことが大きい。

子どもは〈生活〉の中で育つ。しかし、その〈生活〉が大きく変容している。

②子どもが育つ場が、核家族が中心の〈家庭〉に特化されてきた。

しかし、そこは母親中心で父親は日頃いない。母親は、育て方について訓練されているわけでもない。

家庭だけだと無理がある。家庭は頑張らねばならないが、保育園とか幼稚園、そして地域全体が、子どもの育つ場としてよみがえることが課題だということ。



家庭教育支援の内容

- ① 孤独な家庭、気軽な相談相手がいない。→ストレス発散ができない家庭をなくす。親のたまり場作り。
- ② 地域に子どもを〈放牧〉できる場をたくさん作る。
- ③ 子どもへの接し方の練習ができる場を作る。

〈コーチングの練習〉

・子どもを「善く見る」練習

(例)時間の掛かる子、要領の悪い子 → 何でもきっちりしないと気が済まない子

・自分の子どもの「よいところ」を具体的に20個挙げる。そして、紙に書いて台所に貼っておく。そうすると、それを見るたびに子どもに対して優しくなれる。

・子どもの虐待を防ぐ論理：攻撃性と共感性

攻撃した人に「ダメねー」と言うと余計に攻撃してしまう。共感された分だけ攻撃性が減っていく。

〈コミュニケーションの練習〉

・言うことを聞かないときは4打数1安打のコミュニケーション、KKKH方式の練習をする。

KKKH方式：聞いてやる → (1回は)共感してやる → 考えさせる → 励ましてやれ!

〈子どもの自分探しの応援団長に〉

- ・本物の文化と出会わせてあげよう：職人さん…と出会うチャンスをも！
- ・外国人とも気さくな出会いを
- ・おまえは〇〇に向いている！と言い続けよう…などなど

④ アウトリーチ、出向いていく。

- ・支援を本当に必要としている人は出てこない。大きなお節介をやく。
- ・ホームスタート(生活を一緒にしてあげる)など



青森の地元の文化を見直し、この地だからこそできる支援を工夫する。

- ① 地元にあるものは何でも使う。猫でも使う。そして地元には、豊かなものがあるという再発見をする。
- ② 新しいコミュニティを作る。
- ③ そのために県民全体で〈生活を〉見直そう。

情報交換

午後の情報交換では、「みんなで子育て親育ちを考えよう～自分たちの活動を地元で充実、発展させるために～」をテーマに、自己紹介をしたあと、以下の3点についてグループワークを行いました。

- ① 自分たちの取り組みについて、または、印象に残っている参加したことのある講座・事業等
- ② 支援者として活動するにあたっての課題、保護者や子どもの問題等
- ③ 今後、どのような支援や活動が必要か。（取り入れてみたいことなど）



〈参加者のアンケートから〉

- ・いろいろな立場の方のお話、他市町村の様々な取り組みを聞くことができてよかった。
- ・個人個人は、たくさん子育てについて考えたりしているが、それが地域全体に広まっていないような気がしました。もっと行政と市民等が力を合わせられる地域作りが大切。
- ・いろいろな立場の方と話をしましたが、抱えている問題は同じだと感じました。私は事業所から一人で参加したので、もっとたくさんの職員で参加し、同じく、生で感じる事ができたらなと思いました。
- ・様々な視点の考え方を聞くことができて良かったです。同じ質問でも、違う疑問（課題）が出て、気づきがありました。

〈講師紹介〉

しおみ としゆき
汐見 稔幸 氏



白梅学園大学学長
東京大学名誉教授

出身 大阪府

東京大学教育学部卒、同大学院博士課程修了。

東京大学大学院教育学研究科教授を経て、2007年10月から白梅学園大学教授・学長。

専門は教育学、教育人間学、育児学。育児学や保育学を総合的な人間学と考えており、ここに少しでも学問の光を注ぎたいと願っている。また、教育学を出産、育児を含んだ人間形成の学として位置づけたいと思い、その体系化を与えられた課題と考えている。三人の子どもの育児にかかわってきた体験から父親の育児参加を呼びかけている。保育者たちと臨床育児・保育研究会を立ち上げ定例の研究会を続けている。また同会発行のユニークな保育雑誌『エドゥカーレ』の責任編集者でもある。

【育児・幼児教育関係の主な著書】

『世界に学ぼう！子育て支援』2003年（フレーベル館）

『親子のハッピーコミュニケーション』2007年（岩崎書店）

『育つ喜び 育てる楽しさ』汐見稔幸・和久洋三共著 2008年（玉川大学出版会）

『子どもの自尊心と家族』2009年（金子書房）

『本当は怖い小学一年生』2012年（ポプラ社）など他多数